

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	① 乙 第	号	氏 名	安 川 知 世
論文審査担当者 主 査 眼科学 根 岸 一 乃 内科学 家 田 真 樹 衛生学公衆衛生学 武 林 亨 内科学 林 香 学力確認担当者： 審査委員長：家田 真樹 試問日：2024年12月 5日				
(論 文 審 査 の 要 旨)				
論文題名：Relationship between blood pressure and intraocular pressure in the JPHC-NEXT eye study (筑西眼科研究を用いた血圧と眼圧の関連)				
諸外国の疫学研究やメタアナリシスにより、血圧と眼圧の正の関連が報告されているが、日本人を対象とした大規模な疫学研究はあまりなかった。本研究は、緑内障の既往等がない正常眼の日本人集団を対象に、血圧と眼圧の関連について横断的に検討することを目的とした。その結果、日本人集団において、収縮期血圧および拡張期血圧の高値と高血圧の既往は、眼圧および高眼圧症の有病率と正の関連を認めた。 審査では、本研究は横断研究のため血圧と眼圧の因果関係が明確ではないが、因果関係に関する既報はあるか問われた。諸外国の縦断研究においても、血圧と眼圧の正の関連が報告されていると回答された。血圧のコントロールが眼圧上昇の予防に繋がる可能性はあるか問われた。本研究において、血圧と眼圧は正の関連を示したため、血圧をコントロールすることで眼圧上昇を防ぐことに繋がる可能性があるという回答された。眼圧に対する降圧薬のデータはあるか問われた。β遮断薬の使用は眼圧の低下と関連があると報告されていると回答された。今回の研究結果を今後どのように臨床に生かしていくか問われた。血圧が高い人は血圧を下げることで、眼圧上昇を防ぐことに繋がるため重要であるとする。しかし、収縮期血圧および拡張期血圧の下げすぎも緑内障のリスク因子と言われているため、適度な血圧を保つことが大切ではないかと回答された。収縮期血圧が10mmHg上昇するごとに眼圧が0.32mmHg上昇するという本研究の結果が、メタアナリシスの結果よりも大きかった理由を問われた。諸外国の疫学研究において、収縮期血圧が10mmHg上昇するごとに眼圧が0.2-0.3mmHg上昇すると報告されており、概ね同等の結果が得られたのではないかと考察していると回答された。正常眼圧緑内障における血圧との関係について問われた。正常眼圧緑内障患者では低血圧の有病率が高いと報告されており、血圧の下げすぎもリスク因子であると回答された。生活習慣と眼圧の関係について問われた。肥満や糖尿病、食事、運動など様々な因子の影響が示唆されていると回答された。本研究において緑内障患者を除外した理由を問われた。本研究の目的が、血圧が未治療の眼圧と関連しているかを検討することであったためと回答された。本研究の結果は海外の既報と相違はあったか、日本人ならではの新しさはあったか問われた。日本人の平均眼圧は、白人や他のアジア人よりも低いという特徴はあるが、様々な諸外国からの既報においても本研究と同様の結果が報告されていると回答された。血圧が低いと正常眼圧緑内障のリスクが高くなる理由を問われた。眼灌流圧が低下し、視神経の虚血性損傷に繋がることが一因であると回答された。 以上、本研究は横断研究のため血圧と眼圧の因果関係が明確ではないものの、大規模な人口ベースの研究であり、血圧上昇が眼圧上昇に影響を及ぼす可能性を示唆した有意義な研究であると評価された。				